



静岡県教育委員会
教育広報紙

Eジャーナルしずおか

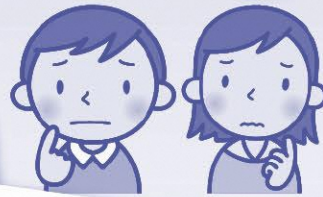
自立し、互いに関わり合いながら、よりよい社会づくりに参画し行動する「有徳の人」の育成を目指して

令和2年(2020年)
7月6日
月曜日
第225号

発行・編集 教育政策課 〒420-8601 静岡市葵区追手町9番6号 TEL 054-221-3674 FAX 054-221-3561 E-mail kyoui_seisaku@pref.shizuoka.lg.jp

ご存じですか? 「ふじのくにiマップ」

- うちの子、不登校の経験があるけれど進学や就職は大丈夫かしら?
- うちの子、落ち着きがなくて困っています。



- 不登校の生徒の進路についてアドバイスできる情報がほしいな。
- 困っている子どもたちが前向きになるきっかけをつくってあげたいなあ…。



保護者

相談・居場所・就労支援

16団体 掲載

団体紹介 ①

NPO法人青少年就労支援ネットワーク静岡

「働きたいけどやりたいことが見つからない」「人と接するのが苦手で仕事をするのが不安だ」「仕事にうまく就けず困っている」「仕事を失って生活が苦しい」という方々と、「一緒に考え、一緒に行動する」というスタンスで関わる団体です。県内各地で約1,600人のボランティアが困りごとを抱えた人たちに寄り添って応援する「伴走型就労支援」を通じて、助け合える社会を目指しています。



▲人とのつながりで人は変わる

学習支援

16団体 掲載

県・市町の相談機関・支援機関の連絡先

多数 掲載

就学・通信制高校等

34団体 掲載

ふじのくにiマップの団体と個別に相談ができる「合同相談会」があります。どなたでも参加できます。

そうだ! 合同相談会 を紹介してみよう。

参加団体・事前申し込み方法・各会場詳細情報は、県ホームページでお知らせしています。
※新型コロナウイルスの感染状況により、合同相談会を中止する場合があります。
会場にお越しになる前に県ホームページでご確認いただくか、
静岡県教育委員会 社会教育課 青少年指導班【054-221-3305】へお問い合わせください。

【社会教育課】



先生

ニート・ひきこもり・不登校などで悩んでいる子ども・若者や、その家族の支援に関わっている静岡県内の支援団体・相談機関等を紹介しています。



親の会・家庭支援

6団体 掲載

団体紹介 ② 静岡県LD等発達障がい児・者親の会きんもくせい

幼児から大人までの発達障害の子どもを持つ親たちが集まって31年目を迎えました。座談会やレクリエーションなどを通し、子育ての悩み相談や情報交換をしています。県内4支部に分かれて活動しています。ひとりで悩んでいないで話をしましょう。お互いに支えあって、親も子ども楽しくいきいきと暮らすことをめざしましょう。



▲講演会、グループワークの時間にみんな笑っています。



実践NOTE 447

「主体的・対話的で深い学び」を目指した授業

静岡県立三島長陵高等学校 教諭 内田さち子

人と関わり続けることが出来る生徒を育てる教育実践

本校は、単位制、3部制、定時制高校で、一人一人が時間割を作り、74単元以上を修得し卒業します。働きながら勉強する生徒や、不登校を経験した生徒など、多様な生徒が多様な学校生活を送っています。総合的な探究の時間とLHR以外の授業は、クラス、年次関係なく、授業を選択した生徒が集まり行われます。制服や細かい校則はありません。



筆者

学びのデザインシートを活用した授業改善

昨年度から私は、主体的・対話的で深い学びのための授業改善に向けて「学びのデザインシート」を活用しています。解決したい課題や問いは、生活と関連させていて学んだことを活用する場面を生徒が想像できるもの、個人では解決することができず周囲と協力する必要があるものを設定します。



グループでジグソー法

学びを通じた仲間づくり

課題は時代の変化と共に変化し続けるため、新聞、ニュースなどで情報収集を常にしています。

私が一番大切だと考えていることは、人と関わり続ける力を育てることです。学校行事が少ないため、人との関わり方を学ぶ機会として何より授業が大切です。共に課題に取り組み、卒業後にも人と関わることでできる力になると考えます。例えば、グループ活動が苦手な一人一役が難しい生徒は、二人で一役とし「意見が出せるなら出しましょう」と声を掛けます。中には、席を班の形に移動することすらせず、黙って下を向いてしまっている生徒もいます。理由を尋ねても返事はありません。これをきっかけに学校に登校しなくなってきたら、「今日はやりたくないが、今日はやりたくない日なんだね」と共感的に寄り添い、授業を進めたいことがあってもいい」「今できなくてもいい」と考え、挑戦しています。生徒が活発に意見を交換し、真剣に課題に取り組む姿に、感動したり、わくわくしたりする瞬間も何度となくあります。他の生徒の学ぶ環境を壊したり、できないことで自暴自棄になったりする生徒がいれば、分かります。



卒業式に生徒と

ります。生徒の将来の成長を想像して、広く、柔軟な心で接するように心掛け、次に会うときには笑顔で接します。

心が帰る場所をつくる

昨年度、卒年次という卒業可能な単位数を持った生徒のクラス担任でした。SHRでは、生徒が口々に聞いてほしいことを話します。「聞いてくださいよ」の言葉が続くのは、家族、アルバイト、勉強、友達のことなど。高校生の我が子が帰宅して、一日の出来事を母である私に話す様子と重なります。顔だけ見せに来る生徒、しばらく無言で私を抱きついて帰って行く生徒もいます。

心配事の多くは進路についてで、新しい環境に飛び込むことへの不安を口にします。共感したり、背中を押したり、生徒の性格や家庭環境などに合わせて声を掛けます。「辛くなったら、顔出すね」と言ったり、学校を心のよりどころと感してくれていることが分かり、私自身が励まされました。社会に出てからの、生徒たちのさらなる成長を期待しています。

実践NOTE 448

体育大好き（見方・考え方を大切に、一人一人に学びの実感を）

牧之原市教育委員会 学校教育課 指導主事 田平博道

いろいろな「楽しさ」を感じて欲しい

「次の時間は体育だ。やったあ」という声が上がるとその裏には「やだなあ、なんにも楽しくない」という声があります。子どもの運動に対する二極化は体育科において長年の課題です。そこで、各教科における見方・考え方を明確にした新学習指導要領の実施をチャンスと捉え、授業改善の一步として取り組みました。



筆者



友達の頑張りをを見つけよう！(国語科で作った作戦ボード)

3年生として初めての「ゲーム※ボール運動」低学年の「遊び」から中学年の「ゲーム」に変わる今、「する」「楽しさ」だけでなく、「みる」「支える」「知る」という体育科における考え方を大切にして運動と関わる楽しさを感じさせたいと考えました。本教材に触れさせることで子どもたちが「体育が好き」「運動が得意」を感じていました。



授業の中で必ず楽しさを共有する場をつくる

「次」の時間を体育だ。やったあ」という声が上がるとその裏には「やだなあ、なんにも楽しくない」という声があります。子どもの運動に対する二極化は体育科において長年の課題です。そこで、各教科における見方・考え方を明確にした新学習指導要領の実施をチャンスと捉え、授業改善の一步として取り組みました。

体育の授業における楽しさや喜びは、子ども一人一人の中にあります。決して「できる、できた」の楽しさだけではありません。単元を通して、応援チームの設定や学習カード、作戦ボードの活用により、友達の姿を見ることを意識させました。

ゲームのルールは、カリキュラムマネジメントを活用し、国語科や学級活動、道徳などにおける学びと関連づけながら自分たちで進化させました。何度も話し合いを重ね、「全員が楽しむことが出来るルール」を自分たちで作ります。子どもたちは審判の役割にもなりました。

得点を数える役、タグを拾う役、ボールの行き先を追って笛を吹く役などです。当初、めめ事ばかりで進まなかったゲームが自分たちの力で成立させることができた瞬間、審判役の子どもたちは充実感と達成感でいっぱいでした。今度は「支える」ことにやりがいを感じていました。

指導者の出番は…指導者として、付けた力の明確化、単元構想の工夫をし、さまざまな仕掛けをしていくことはもちろんですが、その場その瞬間(時間)にしかできないことがとても大切だと考えています。それは、子どもたちがさまざまな場面で感じた楽しさや喜びを共有することです。

そこに大きな指導者の出番があります。子どもたちがそれぞれの課題に向かって頑張ったそのとき、運動の新たな楽しさに気付いたそのときに指導者はそれを価値付け、思い切り称賛します。指導者に認められることで、子どもたちはそこに価値を見出すようになります。さらに、学級みんなで共有することで、運動の楽しさを多面的・多角的に捉え、新たな楽しさを見付けようとする。今までの自分には無い新しい目を持つようになります。

これが「知る」ことの喜びであると考えます。

体育の見方・考え方を広げ、豊かなスポーツライフにつながる授業を実践していくことで「運動ができないから体育は嫌い」でなく「運動は苦手だけど体育は大好き」と思える子どもたちをこれからは育てていきます。

やってみよう！ビブリオバトル！

「ビブリオバトル」を知っていますか？「ビブリオバトル」は参加者同士で本の紹介をし合い、最も読みたいと思う本を集めた人全員の投票で決めます。誰でも気軽に開催でき、本だけでなく人との交流を楽しめることが特徴です。新しい本と出会い、知らなかった友人の一面にも出会えるかもしれません。人に自分の想いを伝えるプレゼン力が付くことも期待できます。周りの人と声を掛け合ってやってみませんか？

問 社会教育課 TEL 054(221)3161



自分が読んで「面白い」と思った本や「人に読んでほしい」と思った本を1冊持って集まります。



順番に一人5分間で本を紹介し、その際、原則、レジュメや資料は使わず、その本の良さや魅力を自分の言葉で熱く語りましょう。



参加者は発表者のプレゼンを聞いて、紹介された本について、もっと知りたいと思ったことについて質問しましょう。



全員の発表が終了した後、一番読みたくなった本に参加者全員が投票します。一番多くの票を集めた本が「チャンプ本」です。

ポストコロナ時代の教育を見据えて

サポートブック(P56)「授業設計診断ICT活用編」も併せてご活用ください!



「主体的・対話的で深い学び×ICT」どのようにして?

Society5.0の到来を目前にしたICT環境整備は、新型コロナウイルス感染拡大に伴う臨時休業措置により加速度的に進められ、広くその有用性が認知されました。新学習指導要領では、情報活用能力を学習の基盤となる資質・能力と位置付け、各教科等のさまざまな学習の場面でICTの利活用を進めることで、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた学習活動の充実を求めています。ICTを教具として効果的・効率的に取り入れ、既存の学習活動とICTとのベストミックスを探ることが、子どもが主体的・対話的に深く学ぶ授業デザイン力を高めます。ここでは、前号で紹介したツールを、総合教育センターが研究を進めてきた授業改善の視点に当てはめ、どのような場面で、どのように取り入れることができるのかを紹介し

授業設計診断の4項目 編

知識構成型ジグソー法 編

学習の成果

- 学びを可視化し、振り返りを支援
- 学習の過程、成果物の保存性を高める
- 生じた新たな疑問への主体的な学習環境の提供

解決したい課題や問い

- 画像、データの提示による動機付け
- 課題や問いの「理解」「共有」を効率化
- 現状・実態把握のためのネット利用
- 教材研究におけるネット利用

対話と思考

- 可視化による思考の整理、深化
- 発表、情報交換の支援
- 授業の進行を効率化し、時間を確保
- 遠隔地との通信による対話

考えるための材料

- より多様でより多くの資料の提供
- 子どもの手元により画質の資料を提供
- 反転学習による事前学習の支援

学習の流れ Google 無料ツールの活用で、例えばこんなことができます!

- 1 解決したい課題や問いに対する自分の考えをまとめる。
- 2 考えるための材料を読み、伝えることを整理する。
- 3 他の人に説明する。各人の理解を合体して課題に取り組む。
- 4 全体で発表・意見交換する。
- 5 解決したい課題や問いに対する自分の考えを再度まとめる。

導入

- Google フォームで写真等を提示
- アンケートを実施
- 結果をその場で共有できる!

活用メリット

- グループで出た意見をコメント機能に記録する。
- 整理する過程で生まれた疑問等についてインターネットで調べ、コメント欄にリンクを貼り付けたり、ドキュメント内に、効果的に伝えるための画像等を貼り付けたりする。
- 重要なところを強調したり、自分の資料と関連があるところにコメントをしたりする。
- 3でまとめた答えをもとにスライドを作成し、スクリーンに提示して発表する。
- 集約されたものを見ながら発表を振り返る。

※総合教育センターWebサイトに主体的・対話的で深い学びとカリキュラム・マネジメントに関連したページがあります。ぜひご覧ください。
https://www.center.shizuoka-c.ed.jp/index.php?page_id=226



【総合教育センター アクティブ・ラーニング プロジェクトチーム】

令和元年度 キャリア教育に関する文部科学大臣表彰の受賞校が決定!

本表彰は、キャリア教育の充実発展に尽力し、顕著な功績が認められた、教育委員会、学校及びPTA団体等に対して、その功績をたたえ、文部科学大臣が表彰することにより、キャリア教育の充実を促進することを目的としています。今回は、受賞した3校の取り組みについて紹介します!



三島市立徳倉小学校の取り組み

キャリア教育とプログラミング教育の横断的実施で子どもの基礎的・汎用的能力を育成する

三島市立徳倉小学校では、キャリア教育とプログラミング教育を連携させた取り組みを推進しています。

例えば、6年生の実践では、教育用レゴのマインドストームEV3を使い、「仕事に役立つロボットを考えよう」をテーマに学習を進めました。子どもたちは、ロボット制御について学んだことをもとに、将来自分が就きたい職業で、「ロボットをどのように活用するのか」を具体的に考えました。実際にプログラミングを行い、ロボットを動かす際には、学習を補助するメンターの方や地元企業等にも協力していただきました。

AIや科学技術がどんなに発展しても、それらに目的や意図を与え動かすのは人間です。子どもたちは学びの中で、人間の強みを実感したはず。他学年でも、地元企業の出前授業やサポート事業を活用し、プログラミング体験をしながら、キャリア教育で育成を目指す「人間関係形成・社会形成能力」、「課題対応力」等の資質・能力の伸長に向けた取り組みを行っています。

自分たちが考えた仕事に役立つロボットの動きをイメージし、レゴのマインドストームEV3とiPadを利用して、プログラミングを行いました。



菊川市立菊川西中学校の取り組み

キャリア郷育の推進

菊川市立菊川西中学校では、「地域に誇れる、地域が誇れる学校」づくりを目指し、「総合的な学習の時間」を活用して、学校全体で「キャリア郷育」を推進しています。「郷育」には、「地域の人材を積極的に活用する」、「子ども達が地域に出て行く」という意味が含まれています。

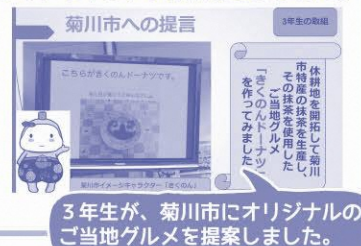
写真は、3年生が作成したプレゼンテーションの一部です。それぞれの生徒が、菊川市の未来を考え、ICTを活用して、市議会議員をはじめ、講師の方々や保護者に前に提言したときのものです。

この提言に至るまでには、3年間の「キャリア郷育」の積み重ねがありました。

1年生では講師からパーマカルチャーデザイン(持続的な環境を築いていくためのデザイン)の視点を学びました。デザインするときの大きな視点は、「地球に優しい、人に優しい、分かち合う」というものです。この視点を持って、地元の職業人を招聘する「ふるさと未来塾」(2年生)や、地元の職場に働きに出掛ける「職場体験」(2年生)を通して、生徒は、地元の良さや課題に気付いていきました。

3年生では「菊川市を持続可能な街にしよう」というテーマで、地域が抱える課題に向き合いながら解決策を考え、主体的に地域に参画しようとしてきました。

このように地域の力を最大限に活用しながら、学校全体で系統的・発展的なキャリア教育を展開し、よりよく生きて働く力を育成しようとしています。



3年生が、菊川市にオリジナルのご当地グルメを提案しました。

伊東高等学校城ヶ崎分校の取り組み

個を大切にしたい温かみのある少人数教育

静岡県立伊東高等学校城ヶ崎分校は、分校訓に「不撓不屈」を掲げ、自立と共生の心を育成することを教育目標とする1学年40人の全日制普通科の高等学校です。特別支援学校高等部を併置し、共生・共有に取り組んでいることやタブレット等のデジタル機器も積極的に活用して作品制作を行うアートコースを設置して、個を大切にしたい温かみのある少人数教育等が特色の学校です。卒業後も地域社会を担う人材として必要な、たくましく自立できる力を育むため、系統的なキャリア教育を実施しています。

具体的な取り組みとして、

- ① 静岡大学の協力を得て実施しているソーシャルスキル・トレーニング講座
- ② 行政や地元企業、卒業生と連携して行う1年生の社会人インタビューや2年生の市役所、病院、地元企業等でのインターンシップ
- ③ 美術部が中心となり伊東市等からのさまざまな作品制作依頼に応えるアートによる地域貢献 など

これまでに、伊東市の市制70周年ロゴマーク、伊東からの原画、オリ・パラのぼり旗デザイン、空き店舗や鉄道ガード下のペイント等多くの作品を制作しました。今後も、地域の期待に応えられる人材を育てていきます。



鉄道ガード下のペイント(生徒作品)

【義務教育課 高校教育課】

電話相談を活用すれば、保護者・子どもの支援も充実!

【総合教育センター教育相談課】

このような悩みを抱える保護者や子どもは特別ではありません。

最近、子どもの様子が気になるけど、学校には言いにくいし、どうしよう…。

学校行きたくないな……でも、こんなこと誰にも言えないよ。

保護者や子どもには、学校に話にくい悩みもあるだろうな。学校以外でも悩みを相談できる場所を事前に紹介しておこう。

思い切ってSOSダイヤルに相談してみよう。

教育相談 ハロー電話「ともしび」 …………… つながる ▶ **面接相談** ◀ つながる ……………

☆青少年からの悩み相談、保護者からの教育相談を受け付けています

沼津局 ☎055-931-8686 静岡局 ☎054-289-8686
掛川局 ☎0537-24-8686 浜松局 ☎053-471-8686

平日:午前9時から午後5時まで ※年末年始(12/29~1/3)を除く

・「友達がいなくて」「いじめられている」「学校に行くのがつらい」等の青少年の悩みや、「子どもの発達の遅れが気になる」「子どもの将来が心配」等の保護者の不安を電話で相談することができます。

・匿名で相談することができます。

・必要に応じて、教育相談課の面接相談につなげ、継続的な支援を行います。

☆相談員が、お困りのことについて共に考え、よりよい状態になることを目的とします

・1回の面接時間は1時間以内、予約制となっています。

・県総合教育センターの掛川会場、沼津会場の2か所で開催しています。

☆夜間・休日を含めて、24時間いつでも相談できます

☎0120-0-78310(なやみ言おう)

・いじめに限らず、不登校や学校生活等に関する子どものSOS全般が相談できます。

・学校や家庭における不安やストレスについての相談もできます。

・静岡県内在住の小学生・中学生・高校生及び、その保護者の相談を受け付けています。

7月は、「青少年の非行・被害防止強調月間」です!

～県内一斉少年補導、立入調査を行います～

新型コロナウイルスの関連で大変な状況が続いておりますが、例年の7月と言えば…「七夕」「海開き」「夏休み」、楽しいことがたくさんイメージされますね。子どもたちも夏休みを前に、わくわくの日々を過ごす時期でもあります。そんな7月に静岡県では、毎年「青少年の非行・被害防止強調月間」として、子どもたちの非行や被害を防止するために、各市町で街頭キャンペーンや県内一斉少年補導、立入調査を行っています。

● 最重点課題「SNS利用に係る子どもの性被害等の防止」

令和元年中の静岡県の少年非行件数は、863人(前年比+75人)と前年より増加しました。その一方で、スマートフォンをはじめとする携帯端末機器やアプリ等の多様なサービスが急速に浸透し、子どもたちを取り巻くインターネット利用環境が大きく変化している中、子どもたちがインターネット上の有害な情報に触れることで事件やトラブルに巻き込まれる危険性が増加しています。

そこで、今年度は「SNS利用に係る子どもの性被害等の防止」を運動期間の最重点課題に掲げ、保護者や子どもたちに強く呼び掛けていきます。

● 重点課題

- 最重点課題のほか、以下の6点を運動期間の重点課題として取り組んでいきます。
- 有害環境への適切な対応
 - 薬物乱用対策の推進
 - 不良行為及び初発型非行(犯罪)等の防止
 - 再非行(犯罪)の防止
 - いじめ・暴力行為等の問題行動への対応
 - 「地域の青少年声掛け運動」の推進

● 声掛けから青少年の健やかな成長へ

社会教育課では、地域の青少年にあいさつをしたり、頑張っている姿を励ましたりするなど、青少年の健やかな成長を支援していきこうと、平成12年から「地域の青少年声掛け運動」を続けています。賛同していただいた方には、声掛けバッジを配布し、声掛けを通して、青少年を支え育てる環境をつくっていただいています。

子どもたちの健やかな成長には大人の関わりが大切です。日頃から家庭・学校・地域が相互に協力・連携して、子どもたちを守るためのよりよい環境を作っていきましょう!

「声掛け運動」への参加申込、詳細については、社会教育課HP「地域の青少年声掛け運動」まで。 【社会教育課】

児童ポルノ等の提供を求める行為の禁止規制新設等に伴う条例の改正

- 1.改正した条例**
静岡県青少年のための良好な環境整備に関する条例(昭和36年10月4日公布)
- 2.公布及び施行日**
令和2年3月27日公布、令和2年7月1日施行
- 3.改正内容**
青少年(満18歳に達するまでの者(婚姻によって成年に達したものとみなされる者を除く。))に対し、当該青少年にかかる児童ポルノ等の提供を求める行為を禁止した。(条例第14条の5)
更に、提供を求める行為をした者のうち、青少年を威迫、困惑、欺くなどの方法で提供を求めた場合は、罰則(30万円以下の罰金)を科すこととした。(条例第21条第4項第12号)
- 4.改正の背景(概要)**
近年のスマートフォンの急激な普及により、判断能力の未成熟な青少年が自身の裸体等を撮影してコミュニティサイト等で知り合った相手にメール等で送信させられる、いわゆる「自画撮り被害」が社会的な問題となっている。
全国の児童ポルノ被害は年々増加し、うち自画撮り被害は約40%を占めるほか、静岡県下でも青少年の自画撮り被害は後を絶たない状況である。
児童ポルノ等の提供を求める行為は、インターネットへの画像の流出、拡散へと繋がり、青少年を将来にわたって苦しめる危険性があることから、それら被害から青少年を守るため、条例の一部を改正した。
※全国の改正状況(令和2年4月23日現在)
- 5.リーフレットの配布**
条例改正に関するリーフレットを作成し、県内全ての小・中・高・特別支援学校及びPTA関係団体等へ配布し、青少年自身はもちろん、保護者や学校関係者等へ周知する。 【社会教育課】



富士山学習からレクリエーションまで ～静岡県富士山世界遺産センターをご活用ください～

生活科、総合学習、特別活動などで毎年約150校の利用実績

☆学校向け「教育プログラム」完備!
☆幼稚園から高校生まで、各種ワークシートを御用意!
☆出前講座に講師派遣!

公式ホームページ 最新情報は、こちら →

問 静岡県富士山世界遺産センター
TEL 0544(21)3776

民生委員・児童委員は地域の「つなぎ役」!

～ 民生委員・児童委員との一層の連携を ～

民生委員は、地域住民に対する個別の相談や見守り活動などの地域福祉活動を行っています。現在は、令和元年12月から新たに委嘱された民生委員が地域で活動しています。

また、民生委員は児童委員を兼ねており、例えば、母子・父子家庭の相談のほか、子どもの貧困や児童虐待に関する相談にも応じ、専門機関へつなぐとともに、学校と関わって活動しています。

学校で児童・生徒の様子がおかしいと感じたとき、地域での児童・生徒の様子について確認したいときには民生委員・児童委員と情報交換してはいかかでしょうか。

個人の話を伝えることに不安を抱く方もいるかもしれませんが、民生委員・児童委員は特別職の地方公務員で守秘義務があり、秘密は固く守られます。安心してご相談ください。

◇ 民生委員・児童委員制度に関して ◇
問 健康福祉部 地域福祉課 TEL 054(221)3525



あんしん むすぶ ● 教職員共済

教職員共済は「教職員」だけがご加入いただける共済生協です!

たすけあいの輪にあなたも参加しませんか?

イメージキャラクターの「あむりん」です。

病気・ケガへの備え
死亡への備え
災害への備え
車の事故への備え
賠償事故への備え

厚生労働省認可
教職員共済生活協同組合 静岡県事業所 〒420-0856 静岡市葵区駿府町1-12 静岡県教育会館 3F TEL: (054)251-1085

https://www.kyousyokuin.or.jp/